

広島TLO イノテックに技術移転

ミクロ領域での凹凸判別 画像処理装置

24例目となる。

【広島】広島TLO（広島市中区、宇田誠理事長、082・240・7718）は19日、保有する技術シーズをイノテック（広島市中区、伊藤賢治社長、082・544・0011）に技術移転（実施権の許諾）した。発明者は広島工業大学の佐藤和弘教授で、名称は「画像処理装置」。広島TLOの技術移転は

移転したのは、照明むらなどに起因するシェーディング補正を伴う画像や低照度画像の2値化、エッジ検出する技術。従来の微分方式の2値化に比べて、暗い部分の情報を抽出し易く、画像の低周波変動成分を除去する。画像のミクロ領域での凹凸を判別できる新しい方式。

技術は医用画像の病巣抽出などへの応用が期待されるのをはじめ、コピーなどのデジタル情報機器への技術派生も可能という。

イノテックは自社製品の画像寸法計測、粒子計測などのシステムに組み込み、画像処理機能の向上を目指す。新製品開発のキーテクノロジーとしても活用する。